

# 時の話題

## 血液の話題(5) (—ピロリが原因で血小板減少?—)

医療法人 幸良会 シーピーシークリニック  
武元良 整

### ヘリコバクタ・ピロリ菌とは?

1980年代にオーストラリアで発見されました。胃の粘膜を好んで、そこに住み着くと考えられています。日本では兵庫医大が最初に報告・確認したとされています。国内の高齢者の70-80%が感染し、衛生状態が悪化すると感染率が高くなる事など知られています。一般には、ヘリコともピロリとも略されます。この菌の検査方法は1.胃内視鏡によるもの、2.胃内視鏡によらない方法の2つがあります。簡便な方法が開発され、負担の少ない検査方法としては尿をサンプルとして約20分程度で結果が判明するものがあります。

### 消化性潰瘍は感染症だった。

ピロリの発見以後、上部消化管病変に対する診断と治療は大きく変化しました(文献1)。すでに、消化性潰瘍は感染症と認識されています。したがって、その除菌は重要です。除菌方法は省略しますが、除菌後の潰瘍の再発率は低くなります。さらに、解決が期待されている話題として「ヘリコバクタ・ピロリ菌の惹起する炎症と胃がん発生の関係」があります。

### 血小板減少とピロリの関係は?

ところが、血液疾患でもピロリが関与しているのではと考えられるようになってきました。それが、今回のタイトルです。「特発性血小板減少性紫斑病」(ITP)は特定疾患指定です。約30年に及ぶステロイド、摘脾そして免疫抑制剤の治療ガイドラインがいま、見直されています。厚労省研究班の成果の一部を紹介します(文献2)。図1が調査研究班からの治療ガイドラインの提案です。まず、除菌治療で効果をみるのが好ましく、無効例に対しては従来の治療が必要と考えられます。図2には研究班が行った全国10施設における除菌療法アンケート結果を示します。ITPの診断例におけるピロリの陽性率は68%、陽性例に対する除菌成功例は53%、さらに成功例中、血小板増加を認めたのは63%です。本疾患にお

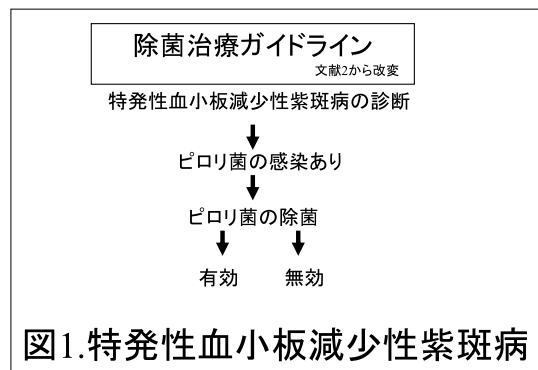


図1.特発性血小板減少性紫斑病

## 時の話題

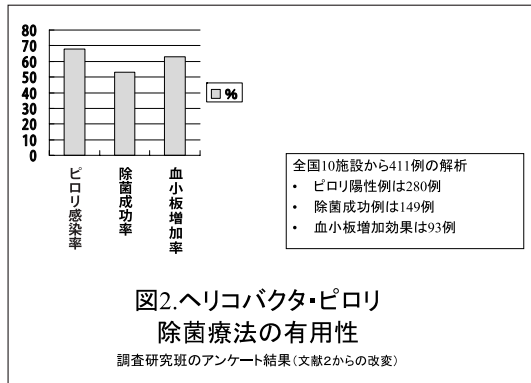


図2.ヘリコバクタ・ピロリ  
除菌療法の有用性

調査研究班のアンケート結果(文献2からの改変)

いては、従来の副腎皮質ステロイド投与がもはや、第一選択ではなく、除菌療法の有効性が証明されました。

### なぜ、除菌？

ピロリ除菌が血小板増加を引き起こす機序は解明されたのでしょうか？説明されているのは、血小板膜蛋白とヘリコバクタ・ピロリ菌との交差反応の可能性です(文献3)。しかし、除菌が不成功に終わっても血小板数の増加を認める例もあることから、ピロリの直接的な関与だけでなく、間接的関与も示唆されています。したがって、一度の除菌で十分な効果がなくとも、ある程度の血小板数の回復があれば、再治療の必要性もあります。

### 再除菌？

初回除菌治療でピロリの除菌に失敗した時、再除菌したらどうでしょうか？橋野らの報告(文献4)では66%が再除菌により血小板数の回復が得られたとしています。佐藤らも同様の再除菌例を報告しています(文献5)。それによると最初の除菌で1ヶ月後に血小板数は2万から24万に増加するも、4ヶ月後に3万にまで減少。ピロリが尿素呼吸試験にて陽性持続のため、再除菌したところ、菌の陰性化とともに速やかに

血小板数が20万以上に増加。その後、21ヶ月経過し、血小板数は正常に経緯していると述べています。

### 除菌以外の治療法は？

免疫学的な機序が想定されている疾患であるため、以下の治療法が検討されています(文献6)。1.免疫抑制剤としてシクロスポリンやMMF(mycophenolate mofetil) 2.抗CD20キメラ抗体(Rituximab) 3.抗CD52ヒト化抗体 4.TNF阻害薬 5.副刺激遮断薬などです。

### 除菌関連話題

以下の話題があります。大学とヨーグルト業界が共同で胃潰瘍薬剤とヨーグルトをピロリ3剤除菌薬と併用する臨床試験を始めたようです。これらの結果は来年の春に、明らかにされます。

(追記：ヘリコバクタ・ピロリ菌の発見者が2005年のノーベル医学賞を受賞されました。)

### 文献

1. Suerbaum S and Michetti P. Helicobacter pylori infection. N Engl J Med. 2002; 347: 1175
2. 池田康夫 特発性血小板減少性紫斑病の診断基準・治療ガイドラインの改定にむけて。臨血2003;45:421.
3. Gasbarrini A. et al. Regression of autoimmune thrombocytopenia after eradication of Helicobacter pylori. Lancet 1998;352:878.
4. 橋野 聡 他。北海道における特発性血小板減少性紫斑病治療の現況(Helicobacter pylori除菌療法施行状況と成績の把握)－アンケート調査報告－臨血2004.45:539.
5. 佐藤一也 他。特発性血小板減少性紫斑病に対する Helicobacter pylori 除菌療法－Helicobacter pylori の活動性と血小板数との相関－臨血2004.45:1252.
6. 桑名正隆 他。ITPの免疫動態と新たな治療標的。臨血2005.46:99.